

(農林水産大臣賞)

(有)穂海農耕

～創業時からGAPで農場管理し、経営拡大～

<基本情報>

所在地:新潟県上越市

設立:平成17年12月

資本金:599万円

構成員:役員2名、社員11名

<経営概要>

経営面積:130ha(約1,000筆)

主要作物:水稻(10品種)等

販売先:自社販売会社(吉野家等と取引)、JAえちご上越(全農との連携による輸出)

総売上額:約1億4千万円

認証品目:米(粳・玄米)



穂海農耕の代表(右)とGAP担当(左)

<経営改善>

GAPで求められる栽培計画策定、作業記録、実績評価をIT利用により効率的に行うこと等で、以下の効果を実現

① 業務用米を中心とした作期分散

により機械を効率利用(田植機で3.7倍、コンバインで2.5倍の稼働) ※1

※1 新潟県特定高性能農業機械導入計画の年間作業負担面積に対する割合

② 農薬の大口取引や必要量の発注により農薬費を削減

(26→28年度:40%減) ※2

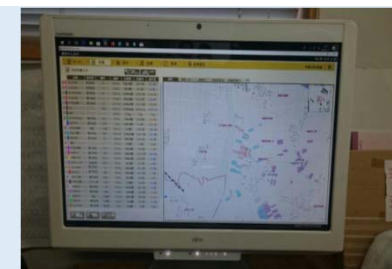
③ 栽培計画に基づく効率的な田植え作業による予備苗(種籾量)の削減により種苗費を削減(26→28年度:14%減) ※2

④ 綿密な栽培計画に基づく作業の効率化等により人件費を削減(26→28年度:35%減) ※2

※2 10a当たり経費で比較

⑤ 従業員起点の作業改善が行われ、従業員の自主性が向上 これらの経営改善の結果、米の生産コストは、28年度は108千円/10a(26年度比5.4%減)。なお、認証コストは136円/10a程度。

また、責任者が従業員に農薬散布の指示書を発行したり、作業時の胸ポケットへのボールペン差し入れ禁止等の異物混入防止対策をルール化することにより会社創業以来、農薬誤使用や異物混入による食品事故は未発生。



<GAPの取組状況>

GAPを社内のルールづくりに活用し、それを実践することで、社員が負担なくGAPを実践

平成18年3月 (有)穂海農耕代表取締役の丸田氏は、GAP導入のため、指導員資格を取得

同年11月 (有)穂海農耕はJGAPの認証を取得

平成28年9月 穀物で第1号となるJGAP Advanceの認証を取得

平成29年9月 ASIAGAP Ver.2(穀物)の認証を取得

<GAPの普及に向けた取組>

丸田氏は、平成20年から日本GAP協会の指導員基礎研修講師として活躍。

延べ4,000人の指導員を育成するとともに、100回以上の講演と50件以上の農場を指導し全国のGAPの普及推進に尽力。